

# 情報デザイン教育の課題設定と進行方法

匹田 篤, \*隅谷孝洋, \*中村 純

広島大学大学院総合科学研究科

\*広島大学情報メディア教育研究センター

hikita@hiroshima-u.ac.jp

概要：広島大学では、情報デザインの能力を身につけるための講義「情報デザイン論」を開講している。学生に課題を提示し、伝えるべきメッセージを絞り込み、その提供方法を考える講義を毎年行っている。これまでの5年間の講義内容から、提示する課題によって成果がどのように違うのか、整理した。これにより、学生が解決方法を見だし、情報デザインの実践にスムーズに到達できる課題の傾向と講義の進行方法を検討した。

## 1 情報デザインコースとは

広島大学では2009年度より全学部の学生を対象に、主専攻プログラムでは専門的に扱わない分野の学習を実現する為に特定プログラムを提供している。情報メディア教育研究センターにおいては、情報メディア教育特定プログラムを開講しており、「コンピュータサイエンスコース」「情報デザインコース」の二つを開講している。

このうち、情報デザインコースでは、コンピュータや情報ネットワーク、各種メディアを活用し、社会で活躍できる力を身に付けたいという意欲を持つ学生を対象に、理論と実践の両面からの教育をおこなっている。単なるコンピュータリテラシーではなく、情報メディア、情報デザインの体系的な理解を目指している。

情報デザインコースは、情報メディア科学基礎、メディア概論、メディア活用論(2013年度より社会情報メディア論)、情報デザイン論の4つの講義からなっており、それぞれ90分の講義を半期15回提供している。

## 2 情報デザイン論のねらい

講義「情報デザイン論」は、情報メディアを用いた送り手の表現と、受け手の解釈の両面について物の見方と技術を既に学んだ学生を対象としている。この講義では、送り手でも受け手でもない第三者の立場として、情報の整理を行い、提供の方法を検討する情報のデザイナーとしての素養を身につけることを目標としている。この講義がねらう学生の到達目標は以下の通りである

デザイン力、企画力を身につける 個々のメディアの特徴に合わせて情報メディアを活用できる 企業や社会におけるメディアの役割と可能性を検討することができる 実社会での課題の解決力を身につける
--

## 3 講義の概要

本講義では、半期15回で2つまたは3つの課題に取り組むことにしている。それぞれの課題については、おおよそ看板、ポスター、ウェブサイトのデザインになることを想定して与えた。

受講生数が5~10人程度であるため、2~3人のグループで作業をおこなうようにしている。

### 3.1 講義の進行について

講義はおおよそ以下のような進行でおこなっている。各ステップはおおよそ1時間であるが、ステップ1については2時間または3時間かかる場合もある。

#### ステップ1 課題の説明と調査(全員)

テーマを説明する。具体的に困っている人の話、さまざまな意見を紹介する。

可能であれば、現地調査をおこなったり、インタビューをおこなう。

#### ステップ2 メッセージの順位付け(全員)

得られた課題や、意見について、メディアの送り手の立場に立ち、受け手に伝えたい優先度で順位付けをおこなう。それぞれの順位付けの違いについて議論をおこなう。

### ステップ3 メッセージの記号化（全員）

順位付けをもとに、各人がメディアへの表現をおこなう。ラフスケッチをホワイトボードに描いて発表をおこなう。

方向性が似ている同士でグループを構成させ、今後の作業グループとする。

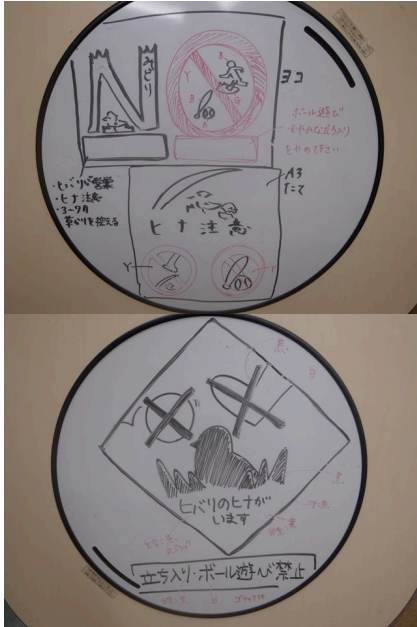


図1 ステップ3における作品例

### ステップ4 記号の単純化（グループ別）

記号の可読性、視認性を訴求する為に、単純化の作業をおこなう。メディアに接する場面を想定させる。

### ステップ5 各グループの発表（グループ別）

グループごとに、検討したメディアの提案をホワイトボードに描き、発表する。

教員が講評する。可能であれば協力者からの意見をもらう。



図2 ステップ5をもとに仕上げた例

## 3.2 提示した課題について

これまでに講義で提示した主な課題は以下の通り

である。

- A ひばりのヒナの看板
- B 高齢者の交通安全の為の反射板
- C 路面電車の乗り方ガイドポスター
- D キャンパスの名所紹介マップ
- E 日本酒の販売促進サイト
- F ラジオ局が配布するマンスリーノート

課題はいずれも学内または広島県内に実際に生じている事例を取り上げており、よくできたものは採用される可能性があることを受講生に伝えた上で講義をおこなっている。

## 4 結果と考察

課題の設定の違いによる、アウトプットの差異を検討した。前章で示した課題について、計画通り学生が最後のステップまでやり遂げられたか、具体的な提案に至ったかどうかで、まとめると以下ようになる。

各グループが最後まで提案ができた課題

- A ひばりのヒナの看板
- C 路面電車の乗り方ガイドポスター

メッセージの記号化までできたもの

- B 高齢者の交通安全の為の反射板
  - D キャンパスの名所紹介マップ
  - F ラジオ局が配布するマンスリーノート
- 伝えるべきメッセージが明確にならなかったもの
- E 日本酒の販売促進サイト

提示した課題のうち、最後まで提案ができたものについて考えると、以下のような特徴がある  
明確な課題であり、批判すべき事例がある  
送り手の期待と、受け手の課題が想像/観察しやすい

学生の間で二つに意見が割れる  
一方、進行がうまくいかなかった課題については、以下のような学生の声がかかれた  
何を解決すればよいかわからない  
利用されるシーンが想像しにくい  
各人が似たような解決方法しか思いつかない

以上をもとに、提示する課題と、講義の進行方法について、さらに考察をおこないたい。